

151号

12月例会のお知らせ

日時： 12月23日（祝日）午後6時半～興尽きるまで。宿泊も可。
場所： 府中町屋倶楽部
内容： 平成17年笑年会
武生ルネサンスと府中町屋倶楽部の合同笑年会を行いますのでお誘いあわせの上、ご参加下さい。
食事の準備がありますので、12月20日までにご連絡下さい。
申し込み先 Tel.0778-23-1834（三木）
会費 3,000円（弁当を用意します。）
酒の肴を持ってきていただくのは大歓迎です。

さあ今年も笑年会の月となりました。数ヶ月前のこと、「今年の最後の例会は、『これは！』と思うものをそれぞれが持ち寄りましょうよ。」との提案がありましたので、そうすることにします。日頃は秘蔵していて自分だけでこっそり楽しんでいるものを、仲間内に見せるという趣向です。ジャンルも大きさも金銭的評価も善悪も(?) 問いません。また見せたからとて、誰かが欲しがるわけでもありませんし、持ち主を言いふらすこともありませんので安心して持ち込んでください。したがって今回の笑年会は、口の堅い人のみのご参加をお願いします。

絵曆を販売中

来年の絵曆は身近な村国山をテーマに編集されています。現在2,000部のうち1,800部が売れました。出来れば今年のうち完売したいので、会員の皆様はクリスマスや年末年始の贈り物に是非使ってください。先月23日に行いました絵曆ケース入れ作業には、約30名の方が来ていただきましたので、予定の半分の時間で作業を完了することが出来ました。ありがとうございました。

絵曆に対する感動のお便りが届いていますので、少し紹介いたします。

「どの月も素晴らしいですが特に2月の写真は

凛々しい山に反して田んぼの稲跡が可愛い白兔の行列に見え、こんな光景を捉えたカメラマンに乾杯です。」「村国山、日野の流れが一体のなった風景を思い出しています。武生は私にとって忘れられないよい土地です。」「机上の備品として重宝しています。毎年のご発案大変ですね。眼福をいただいております。」「毎年思いますのは、月々の写真とともに、短いながらも心に響く解説も愉しみの一つです。」「なんと素晴らしい写真でしょう。特に12月の紅葉は心にしみました。」「なんとって1月の写真が好き。でも8月の花火の写真と10月の子供相撲の写真を見ていたら、なぜか涙が出ました。それに解説が素敵です。」などなど。

余談ですが、12月25日は与謝蕪村忌です。彼は辞世の句で「白梅に明るる夜ばかりとなりけり」と詠んでいます。また西行の辞世の句は「願はくは花の下にて春死なむ その如月の望月の頃」12月の梅、2月の桜、これはどちらも旧暦の話です。新暦で考えますと、蕪村は1月の末、西行は3月の半ばにこの歌を詠んだことになり、納得です。旧暦と新暦ではおよそ1ヶ月のズレがあります。新暦が施行されたのは明治6年ですが明治6年1月1日の前日は明治5年12月31日ではなく、明治5年12月2日だったそうです。

